

高倉 喜信 (Yoshinobu TAKAKURA)

京都大学大学院薬学研究科 (Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University)

日本薬学会は、1880年(明治13年)4月に創立された約140年もの長い歴史と伝統を誇る我が国
有数の学術団体である。初代会頭の長井長義先生の薬学に対する情熱に端を発した本学会は、歴代
の会頭の努力により長年に渡ってその歴史と伝統が継承されると共に、時代の変遷と共に大きく発展
してきた。現在、17,000名を超える個人会員、200以上の団体・企業の賛助会員を有し、「薬学」という
共通のキーワードのもと、大学、企業、医療機関、各種研究機関、行政機関等、広範な専門領域から
の多様な会員により構成され、学会活動が展開されている。こうした本学会の運営の舵取り役を担う
ことは身に余る光栄であると同時に重責を痛感している。微力ではあるが、会員の皆様のご支援・ご
協力に支えていただき責務を果たすべく精一杯努力して日本薬学会のプレゼンスをさらに向上させたい
と考えている。

日本薬学会は Chem. Pharm. Bull. (創刊1953年)、Biol. Pharm. Bull. (同1978年)、薬学雑誌 (同
1881年)の学術誌3誌、ならびに学会の情報誌としてファルマシア(同1965年)を発行することにより、
薬学の進展に貢献してきた。また編集体制を充実させ高質な情報提供を図るとともに、学術誌の査読・
編集・出版の迅速化を図ってきた。英文2誌に関しては、科学技術振興機構(JST)の協力を得て、
J-stage を利用した画面インターフェースの開発を促進し、閲覧の利便性の向上を図った。現在更なる
情報発信機能の強化のために、生物系のオンラインジャーナルとしてBPB Reportsを2018年10月よ
り刊行を開始した。

学術講演会の開催は、本学会の最も重要な学術活動の一つであり、学会創立当時から開催されてき
た年会は本年、千葉で開催されているが、学会自体が重ねてきた歳月と同じ139回目を数えた。また、
本学会は各専門領域別の10の部会および全国を地域別に8つに分けた支部をそれぞれ縦糸・横糸とし
て設け、ダイナミックな活動を展開している。部会は、薬学研究の高度化と次世代を担う優れた人材
の育成を共通の主要課題とし、シンポジウム、フォーラム、研究会などを通じ、各部会の特長に合わ
せた活動を進めており、支部は、各地域の会員と日本薬学会との接点の場として、地域薬剤師会との
交流をはじめ地域に密着した積極的な事業展開を行っている。このように、本学会は広範な視点から
薬学研究の活性化を目指した学術活動を展開しており、今後もこれら特色ある活動を積極的に支援し
ていく予定である。

次世代を担う若手薬学研究者の育成は、今後の我が国の薬学研究の発展のためには必須の課題と考
えている。本学会では、2015年から新たに「長井記念薬学研究奨励事業」を開始し、4年制博士課程・
博士後期課程を対象とした奨学金制度を設けた。既にこの制度のサポートを受けた大学院生が博士の
学位を取得し、社会で活躍し始めており、今後もその一層の充実を図りたい。年会、部会、支部会に
おける奨励賞、優秀発表賞などの顕彰活動も学部生、大学院生を含めた若手研究者のモチベーション・
インセンティブを高揚させるための有効な方法と考えられるので、継続的に進めていきたい。また、
高校生をはじめとする若年層を対象とした、薬学を紹介する啓発誌の発行などでもこれまでもより早
期から薬学に対する関心を高める活動を行ってきたが、さらにこうした努力も重ねていきたい。

任期はこれから2年間となるが、会員の皆様の温かいご支援をお願いする次第である。